大内西小学校だより

平成２９年度

青　於

１２月号

Ｐ連バレー（11/19）

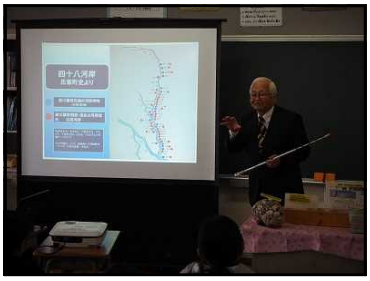
大内地区ＰＴＡ連絡協議会バレーボール大会が、大内改善センターで行われました。４チーム２セットマッチのリーグ戦で行われ、大内西小は、３試合とも引き分けになり、総合準優勝になりました。参加されたＰＴＡ会員の皆さま、お疲れ様でした。

３年生社会科見学（11/20）

上鷺谷にあるイチゴ栽培をしている西川さんの農場に、社会科見学に行きました。子どもたちは、きちんとメモを取りながら、西川さんの話を真剣に聞いていました。見学後、井頭公園によってから、学校に戻りました。ボランティアお世話になりました。

２年生ＳＬ感動体験列車（11/24）

真岡駅から茂木駅までＳＬに乗りました。茂木の道の駅で、昼食を取り、近くの公園で遊んで帰ってきました。ボランティアの保護者の皆さまには、大変お世話になりました。



６年生総合的な学習（11/30）

石井河岸菊池記念館館長の菊池芳夫さんをお招きして、鬼怒川の河岸の話を聞きました。江戸時代、鬼怒川には、たくさんの河岸があり、大内西小の近くにも石法寺の河岸がありました。鬼怒川は、流れが急で、浅瀬が多いため、小鵜飼船という小型の帆船が使われ、一つの船で２５俵の米が運べたようです。また、帆は真岡木綿が使われていたそうです。（ＨＰにもアップしてありますが、１２月５日の下野新聞にも記事が掲載されています。）

朝会の話(12/11)「サリバン先生」

ヘレンケラーは、１才のときに、脳にウイルスが入り、高熱が続き、「目」「耳」「口」が不自由になってしまいました。しかし、他の人の何倍も努力して、現在のハーバード大学に入学。卒業後は、自分と同じような体の不自由人のために、死ぬまで働き、多くの人に夢と勇気を与えました。

なぜ、ヘレンが、大学まで入ることができたか、それは「アン・サリバン」という、家庭教師の先生がいたからです。両親が、ヘレンを甘やして育ててしまった結果、「わがままで、乱暴な子ども」になってしまいました。ヘレンは、自分の思い通りにならないと、「ものを投げたり、暴れたり」したので、サリバン先生は、とても大変でした。取っ組み合いながらも、サリバン先生は、ものには名前があることを教えました。そんなことを繰り返しながら、ヘレンは、少しずつ言葉をおぼえていきました。しかし、毎日、コップで水を飲んでいるが、どうしても、「コップ」と「水」の区別がつきませんでした。ある日、サリバン先生は、ヘレンにコップを持たせて、ポンプの水をくみ始めました。ヘレンは、コップからあふれる水に驚きました。サリバン先生は、ヘレンの水がかかった手に、指で「water」と書いて、コップと水の違いを分からせました。そのことがきっかけで、ヘレンは、「なぜ」と質問を繰り返し、たくさん勉強し、有名な大学にも入ることができました。

～『なぜ』と問うことが、考える世界の扉を開く～

これは、ヘレンと一緒に生活をし、ヘレンが一生懸命に勉強するようになった経験から、サリバン先生が、言った言葉です。みなさんも授業を聞いていて、分からないことがあったら、担任の先生に「なぜそうなるのか」を質問してください。質問した分だけ、勉強ができるようになり、楽しくなります。がんばってください。

持久走大会（12/8）

天候が心配されましたが、時折、晴れ間も見える、絶好の持久走日和になりました。子どもたちは、自分の持てる力を十分に発揮し、走ることができました。保護者の皆さま、地域の皆さまの応援のおかげで、子どもたちは頑張ることができました。ありがとうございました。

（新記録）１年男子：ピーリスデオさん（5分42秒）、2年女子：大塚楓花さん（5分35秒）　（参考記録）3年女子：関岡渚さん（7分2秒）

転入生（12/11）

１年生に転入生があり、全校児童９７名になりました。